

回答書

令和8年6月19日更新

「大熊町町民交流イベント運営委託業務公募型プロポーザル」に関して、寄せられた質問について、以下のとおり回答いたします。

番号	質問の内容	回答
1	イベントにおいて、CO2排出ゼロを目指すこととされていますが、『CO2排出ゼロを目指す』という点について、イベント全体での厳密なカーボンオフセット(排出量の計算やクレジット購入等)までを業務内容に含める想定でしょうか。あるいは、ゼロカーボンを推進するPRエリアとしてのコンセプトという認識でよろしいでしょうか。	必ずしも、厳密なカーボンオフセットによる排出量0を求めるものではなく、「2050ゼロカーボン宣言」を掲げる町として、本事業を実施するにあたりどのように取組むのが望ましいか、その方法を含めて提案を求めるものです。
2	大熊町で活動している学生や地域のプレイヤーで組織される団体等が復興のために企画した内容を加味することが望ましい。とされていますが、連携が望ましいとされる学生・地域団体等について、すでに町として関係性を構築されている具体的な団体がいらっしゃるのでしょうか。それとも、受託事業者が新規に発掘・調整を行う想定でしょうか。	ご質問に記載の地域団体を含め、過去に出展いただいた団体に関する情報については、町から受託事業者へ提供することが可能です。 その上で、本事業の目的達成に資すると考えられる新たな学生団体や地域団体等の発掘及び連携に向けた調整についても期待しており、そのような提案については評価の対象となります。
3	ゼロカーボンブース出展を30以上。とありますが、出展者のリストアップや誘致・交渉は受託事業者がゼロベースで行う想定でしょうか。あるいは、町から既存の出展希望者リスト等の提供や、お声がけのサポートをいただけるのでしょうか。	項番2と同様に、過去に出展実績のある事業者等に関する情報については、町から提供可能です。また、必要に応じて関係団体等への協力依頼を行うことも可能です。 なお、出展者の誘致及び調整については受託事業者が主体的に行うものとし、新規出展者の発掘を含めてご提案ください。
4	利用可能エリアの想定として、駐車場(約2,500㎡)と教室2室(約60㎡x2室)が挙げられていますが、飲食・物販ブースを15店舗以上、およびゼロカーボンブースを30以上配置するにあたり、想定エリア以外の共有スペース等を、企画内容に応じて拡張利用することは可能でしょうか。	利用可能エリアについては、会場となる大熊インキュベーションセンターとの協議及び調整を前提として、企画内容に応じて拡張利用することが可能です。
5	イベントの会場としてグラウンド及びグラウンド周辺を使用する場合において、芝生(人工芝を含む)の保護等取り扱いに留意すること。とありますが、2026年の保護対策についてご教示ください。	昨年度は、ペットの進入禁止及び芝生上での飲食禁止等の芝生保護対策を講じております。今年度についても同様の取扱いを基本とし、芝生の保全に十分留意した運営を求めるものです。 その上で、芝生保護に資する追加的な対策がある場合は、提案内容として示してください。
6	発信回数は2回以上行うものとする。(新聞広告は必須とする。)とありますが、2026年の新聞広告の実績(掲載回数、掲載新聞社数、広告面積、色数)をご教示ください。	新聞掲載回数：1回 掲載新聞社数：2社 広告面積・色数：折込チラシによる発信
7	遠方に避難している町民の参加についても考慮すること。とありますが、避難している町民の連絡先はご提供いただけますでしょうか。	町民個人の連絡先については、個人情報保護の観点から提供いたしません。 一方で、避難先自治体ごとの避難者数については、下記URLにおいて「全国市区町村別避難者数一覧表」を公表しておりますので、当該資料を参考に、広報手法及び実施回数をご提案ください。 https://www.town.okuma.fukushima.jp/soshiki/juminzeimu/34475.html
8	多くの来場者を見込むため、十分な駐車場の確保の計画を行うこと。とありますが、2026年の来場者数をご教示ください。	5,130人(延べ人数)

9	各種広報媒体(SNS全般、紙媒体、広告物等)の企画・制作・運用は本業務に含まれる範囲でしょうか。含まれる場合は、対象媒体および具体的な業務範囲についてご教示ください。	各種広報媒体（SNS、紙媒体、広告物等）の企画、制作及び運用については、本業務の範囲に含まれます。 なお、対象媒体及び業務範囲については特に指定しておりません。事業目的の達成に向けて効果的な広報手法を検討の上、必要な媒体、実施内容及び運用方法を含めてご提案ください。
---	---	--